

歩いて再発見！身近な自然と近隣資産！

泉ヶ丘 緑道 ウォーク

2021

どなたでも
参加可！

申込不要！

2021.6.12(土)

START 10:00(受付9:30)

GOAL 12:00

集合 いずみがおか広場

費用 300円(保険代を含む)

準備 運動に適した服装、靴、帽子、タオル、雨具、水分等をご用意ください

歴史 岩室観音院の大西龍心さんによる「歴史ばなし」を聞くことができます

コロナ 当日7時、緊急事態宣言発令または大阪モデル赤信号点灯の場合は中止

雨天 当日7時、堺市降水確率70%以上の場合は中止



「泉北ニュータウン 緑道ウォーク・歴史資産を訪ね・リフレッシュ」
コロナ禍の中ですが健康維持を兼ねて、緑深き泉北ニュータウン、ネットワークされた緑道を歩き、
周辺の歴史資産を訪ね、ひと・まちと交流し、心身ともにリフレッシュしませんか！

お問い合わせ：090-8368-3549(大阪経済大学 高井) / 090-1072-3063(建築士の会「堺・高石」 北野)

主催：大阪経済大学人間科学部高井ゼミ

公益社団法人大阪府建築士会社会貢献部門地域委員会建築士の会「堺・高石」

*大阪府建築士会会員でCPD登録されている方は当日に番号を受付します

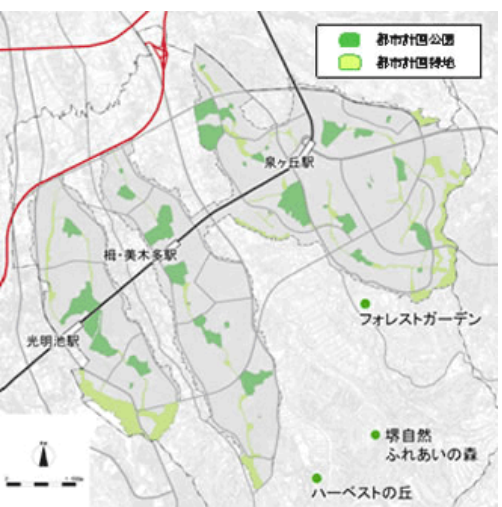
協力：さなぎと、堺ユネスコ協会



<2単位予定>

泉北ニュータウン

高度経済成長期の住宅需要に応えるため、大規模な計画的市街地として整備され、昭和42年のまちびらきから50年以上が経過し、緑豊かな住環境を有するまちとして成長してきました。一方で、社会環境の変化とともに人口の減少、少子・高齢化の進展、住宅や施設の老朽化など、様々な問題も現れはじめています。これらの問題は、一般的な市街地にも共通するものですが、一定期間に大量の入居がなされたニュータウンの特性として、その課題がより明確に、また今後急速に現れてくるものと考えられます（堺市HPより）



泉北ニュータウン緑道

泉北ニュータウン内では、都市計画公園・緑地面積が約300ha（平成20年3月末現在）となっており、これらの公園・緑地、駅や近隣センター等を結ぶように緑道のネットワークが形成され、快適に散歩のできる緑豊かな歩行空間が整備されています（堺市HPより）

いずみがおか広場

1967年にまちびらきした泉北ニュータウンの泉ヶ丘駅の地区センターの広場として整備され、約50年が経過していた。今回のリニューアルにおけるコンセプトは、改修前の「噴水広場」が噴水やモニュメントといった『モノ』が主役の広場から、広場における人々の活動を演出し、コミュニティを形成する『コト』が主役の広場へ変容させることである。広場をデザインするに際して、広場が泉ヶ丘駅と商業施設を繋ぐ役割もあるため、人の動線に配慮しつつ、たまりの空間としての機能を持たせることを考えた。人の動線については、歩行者を視覚的に誘導する舗装デザインとし、たまりの空間としては多種多様な地被・低木・高木の『みどり』を持ち込むことで、潤いのある爽やかなガーデン広場とした。『コト』を生むデザインとしては、「ハレ」の日を演出するイベントの開催がしやすいように常設型のステージを設置し、広場のオープン後から多くのイベントの開催を行っている。一方、「ケ」の日である日常の利用については、中心部にある人工芝広場に高低差を設けることで、平坦な広場空間にインパクトを与え、いつも誰かが座ったり、寝転んだりして思い思いの使い方ができるよう配慮した。さらに、列状に新設した植栽柵と一体となったベンチでは、隣接するコーヒーショップで購入したコーヒーを片手にゆっくりとした時間を過ごすことを意図とした（E-DESIGN HPより）



高倉寺・金堂・御影堂・宝起菩薩堂（堺市指定有形文化財）

南区高倉台に所在する真言宗寺院です。『行基年譜』によると、当寺は行基建立の四十九院のひとつで、大修恵院（だいすえいん）と呼ばれ、慶雲2年（705）行基38歳の開創です。また寺伝によると、高倉天皇（1161～1181）がお越しになられ、「大修恵山高倉寺」の称号を賜ったと伝えられています。天正13年（1585）の根来（ねごろ）攻めによる兵火で伽藍（がらん）を焼失したと伝えられていますが、その後再建され、現在境内には、金堂をはじめ多くの仏堂が小高い丘の上に密集して建ち、江戸時代の濃密な寺院空間を今に伝えています（堺市HPより）



金堂：桁行（けたゆき）五間、梁間（はりま）三間、一重、切妻造、向拝（こうはい）一間、本瓦葺、四方に鋳庇（しころびさし）をまわす仏堂です。建築年代は寺伝で伝わる、寛永7年（1630）に再建され、その後延宝2年（1674）に大改築されたものと考えられます。外観的には切妻造で鋳庇をまわし妻入とする、他に例を見ない姿のものであり、また堂内においては、外陣（げじん）の奥行が浅く、内外陣（ないげじん）に仕切られるなどの中世的な密教仏堂平面であることなど、建築史的にも重要な建造物です。

御影堂：桁行三間、梁間三間、一重、宝形造、向拝一間、本瓦葺の方三間堂です。背面の下屋（げや）は、後に増築されたものです。江戸時代、河州6組の大工組のひとつ石川新堂村大工と、地元の上神谷（にわだに）豊田村大工によって、明和3年（1766）に建築されたことが棟札（むなふだ）から知られます。向拝には江戸後期の華やかな彫刻が見られますが、正面の部戸（しとみど）や面取の大きな角柱は古式な姿を今に伝えています。堂内の宮殿形厨子（くうでんがたずし）は正面を二間とし、中柱上に軒唐破風（のきからはふ）を設ける異例の形式です。内部には弘法大師（こうぼうだいし）、行基菩薩（ぎょうきぼさつ）を祀ります。建築年代が棟札により明確に知ることが出来、また境内伽藍（がらん）を構成する上でも貴重な建物です。

宝起菩薩堂：桁行五間、梁間三間、一重 入母屋造 向拝一間 本瓦葺の建物で、周囲には高欄付（こうらんつき）の縁をまわしています。堂内は、正面と側面側に仏壇を設け、正面仏壇には厨子を、側面側には不動明王（ふどうみょうおう）、役行者（えんのぎょうじゃ）等を祀ります。建立年代は棟札により明治14年（1881）であり、向拝の彫刻などの様式もこの時代のものです。建築年代は明治時代に下るものの、この外観意匠は江戸時代に見られない明治の新しい建築意匠を試みた建物であるものと考えられ、また境内伽藍を構成する上でも貴重な建物です。

岩室山観音院

行基の開基によるもので初め巖室山極楽寺と号しましたが、後に弘法大師がこの寺に起居した際に十一面観音を彫刻して祀り岩室山観音院と改称。江戸時代には厄除観音として隆盛を誇りました。堺市指定の保存樹林に囲まれた境内には、大師ゆかりの井戸なども残されています（泉北ぐるりんウォーキングWEBサイトガイド・堺市HPより）



十一面観音立像
（府指定有形文化財）



阿弥陀如来坐像
（府指定有形文化財）



陶器山・天野街道

古墳時代から平安時代まで利用された「須恵器」。その一大産地が陶器山です。500年間陶器を供給して役目を終えた後、陶器山丘陵の尾根道は「金剛寺への参詣道」としてよみがえりました。あれから、千年の時間を掛けて森を作り、参詣者に木陰を提供した街道ですが、泉北ニュータウンや狭山ニュータウンといった巨大開発で、失われていきました。平成7年、10kmの天野街道の内、往時の面影が残る3.5kmを整備して『あまの街道』と名付けられました。今では、都会の中に残る奇跡のオアシスとして、多くの人に親しまれています。見所は『自然』そのものです。3.5kmのあまの街道に、150種を超える木々が「新芽・若葉・花・木の実・紅葉」の1年を繰り返していきます。ここは昆虫の宝庫、それを求めて集う野鳥達。80種に及ぶ野鳥がやってきます。キノコは300種を超え、ドングリも10種を数えます。ここは、自然の宝庫です！金剛寺は弘法大師が修行した名刹です。金剛寺近くに、すだれ資料館もありますのでお楽しみください（じゃらんHPより）